
ネギま！ 禁じられた魔法を統べる者

千日紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネギま！ 禁じられた魔法を統べる者

【Nコード】

N2145BA

【作者名】

千日紅

【あらすじ】

普通の魔法よりも巨大な力を持つ『禁断魔法』。その魔法を制御する青年は、やがて「立派な魔法使い」を夢見る天才少年と出会い、『禁断魔法』と向き合うこととなる。

第1話 平和が崩れた日

信じられなかった。

ありえないと思いたかった。

『アレ』を無闇に使おうとする奴なんて、いないと思っていたのに。

「マダ残ッテイタカ…愚カナ人間ヨ……」

『アレ』が宿った闇が俺を捉える。

恐い。逃げたい。『アレ』は、危険だ。

しかし、いつもいつも親から言われていた言葉が、俺を逃さなかった。

忘れるな、お前は『パンドラ』だ。『触れてはならないものを統べる者』なのだ

そう、俺は『パンドラ』。

人の欲望から『アレら』を封じ、管理し、統べる者。

己に課せられた大きな責任 今それを果たさずに、いつ果たすというのだ。

「
N o s a u t e m e o r u m f u t u r u m s i
t v e r u m m u n d u s M I N E R V A (我、唯己が為に

未来、真理、世界を紡ぐ」

震える声で始動キーを口ずさむ。

この言葉の通り、俺がやるのは誰のためでもない
俺が、明日
を生きるため。

俺が、生きる理由を創るため。

そのためなら、いかなる痛みも甘受しよう。

今、『アレ』を封じることこそ、俺が生まれた理由なのだから。

第1話 平和が崩れた日（後書き）

オリジナル小説を放り出してやってしまいました。

出来れば、暖かい目で見てください。お願いします。

あと、始動キーのラテン語ですが、翻訳サイトで翻訳したものなので間違っけていてもスルーしてください。

重ね重ね、お願いします。

第2話 麻帆良学園にて

日本にある麻帆良学園都市。その中でも最奥にある女子校舎。

現在は昼休みのため、生徒たちが思い思いに過ごす中、職員室でひとり深々と溜息を吐く青年がいた。

名をパンドラ・リンドヴルム。魔法先生のひとりであり、理科を担当する教師である。

19歳でありながら群を抜く秀才であり、同時に魔法使いでもあった。

イギリス出身の彼が、何故日本の学校で教師をやっているのかという

「何か悩んでいるのかい？ パンドラ君」

「……高畑先生」

薄い微笑を浮かべ彼に声を掛けてきた渋いオジサマ 2・A担任

で英語担当教師、タカミチ・T・高畑のおかげなのだ。

10年前、ある事件で家を失った彼を、偶然知り合った高畑が引き取ったのだ。

「ああ…大変申し上げにくいことなのだが、どうにも2・Aの授業だけが上手くいかなくて。もう就任してから2年経とうとしているのに情けないことだと……」

高畑から若干目をそらしつつ話す。彼が担任を務めるクラスへの愚痴を言うなど失礼にもほどがある、ということと同時に、自分自身副担任をしているクラスが一番上手く授業が出来ないなどただの恥にほかならないからだ。

「まあ、あのクラスはいろいろと特殊だからね…」

そう、特殊なのだ。あのクラスは。

忍者やピエロ、ロボットに魔族と人間のハーフ、果ては吸血鬼の真祖。

もちろん普通の人間も存在しているのだが、彼女らはどうにもはっ

ちゃけていて、なかなか授業が上手く進まないのだ。

「特殊といつても、あそこまでいくと珍獣園だ」

ぼそりと呟いたパンドラの言葉に高畑は苦笑する。彼は手にしていた茶を啜ると、次いで話を変えた。

「今日の放課後は小テストの補修だと聞いたぞ。大丈夫かい？」

「いいえ…また2 - Aバカ五人衆の相手だ。あいつらは私をおちよくっているのだろうか…」

「アスナ君は素で出来ないから、なんとも断言しにくいね」

神楽坂明日菜。

綾瀬夕映。

佐々木まき絵。

長瀬楓。

古菲。

クラス別成績で万年学年最下位の2 - Aの中でも特に成績の悪い五人。ゆえに、バカ五人衆。

その中で綾瀬はやればできるのだが、結局やらないので結論は一緒なのだ。

はあ、と再びパンドラが深い溜息を吐くと、昼休みの終わりを告げる予鈴が鳴った。

「じゃあ、僕は次授業だから、行くよ」

「…すまない。愚痴に付き合わせてしまった」

「気にするな。頑張れよ」

颯爽と職員室を高畑は後にする。

その姿勢のいい後姿を見ながら、パンドラはもう一つ、深い溜息を吐いたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2145ba/>

ネギま！ 禁じられた魔法を統べる者

2012年1月5日20時52分発行